

れきはく NEWS

vol.49
2020.JUN

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 企画展
「大地に生きる ～しまねの災と幸～」
- 4 展覧会通信
- 5 リフレッシュした館内をちょっとだけご紹介
- 6 れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 おうちでれきはく

大阪大地震の次第(瓦版)
公益財団法人絲原記念館蔵

艱民図 太誠谷稲成神社蔵
(津和野町教育委員会写真提供)

富田川河床遺跡出土 茶釜
島根県埋蔵文化財調査センター蔵

安政町二年目神無月屋
(絵巻)

円空作 善女龍王像
圓城寺蔵 写真提供

《企画展》 大地に生きる

令和2年7月10日(金)
→ 9月6日(日)

しまねの
災と幸



四季耕作高時絵親箱
公益財団法人絲原記念館蔵



「平成30年島根県西部地震の際レスキューされた屏風」
西晴雲作 竹林七賢図 個人蔵



柴草祭絵馬
須美禰神社蔵

獅子頭
須美禰神社蔵





【企画展】

大地に生きる

～しまねの災と幸～

会期 令和2年7月10日(金)～9月6日(日)

◎開館時間／9:00～18:00 ※最終入館は17:30となります。

◎会期中の休館日／7月21日(火)・8月4日(火)

会場 島根県立古代出雲歴史博物館
特別展示室



茶釜
〈富田川河床遺跡出土品〉
(島根県埋蔵文化財調査センター蔵)

大地鳴動

災害が少ないと言われる島根県ですが、よくよく調べてみると何度も地震・津波・水害の被害に遭っています。島根の大地をどのような災害が襲い、人々はどのように乗り越えてきたのでしょうか。

過去の災害から学び、「次の時」に備えましょう。



大阪大地震の次第
(公益財団法人絲原記念館蔵)



山本琴谷作 艱民図(一部) (太鼓谷稲成神社蔵・津和野町教育委員会写真提供)

大地に挑む

島根の人々は、自然の脅威にじっと耐えていただけではなく、利用もしてきました。大地を切り崩して得る砂鉄と、山野の樹木から生産した大量の木炭を必要とした「たたら製鉄」はその代表例ですが、日々の農業でも山野の草木は肥料として重要視され、時には「使いすぎ」が社会問題にもなりました。自然との折り合いをつけようと試行錯誤を繰り返してきた島根の人々の営みを振り返ります。



勝軍木庵光英作 四季耕作高蒔絵文台・碓箱
(公益財団法人絲原記念館蔵)



柴草祭絵馬
(須美禰神社(雲南市)蔵)

島根の人々は、長い歴史の中で災害など厳しい自然に直面してきました。しかし災害から立ち直り、さらには自然からの恵みを活かし、豊かな生活を得ることに成功しました。

今回の展覧会では、災害・開発・信仰・綿作をキーワードに、多彩な展示品から、厳しさと優しさの両面をもつ自然に、島根の大地に生きた人々がどのように向き合ってきたのか、その実像に迫ります。



円空作 善女龍王像 (園城寺(滋賀県大津市)蔵・写真提供)



恵比寿天申訳之記 (当館蔵)



斐伊川堤防に残る八大龍王の石碑
(雲南市木次町)

大地に祈る

今も昔も自然の力の前にしばしば人の力は無力です。斐伊川流域には堤防付近に「八大龍王」の石碑が建ち、洪水を恐れて長雨断ちを祈願した当時の人々の思いが伝わります。ただし、人々は災害を恐れるだけではなく、「なまず絵」のようにコミカルに、あるいは風刺を効かせて災害を表現し、災害をきっかけに新しい世の中が出現することを期待もしました。

木綿繁盛記

鉄穴流しによって大量の土砂が流れ込んだことで斐伊川では河床が上昇し、これが原因で水害に悩まされる一方、江戸時代の出雲国を代表する産物「木綿」を生み出す原動力にもなりました。木綿の原料である綿の栽培には、水はけのよい砂地が適していたからです。江戸時代の後半から出雲国では綿作と木綿生産が盛んになり、出雲国の主力商品に成長した木綿に、豪商三井家も目を付けます。

安部朱美作 女性三代 機^{はた}の音



沖一巖作 月に綿花園
(鳥取県立博物館蔵・写真提供)



出雲藍板締め染め布「竹に虎」
(当館蔵)



駿河町越後屋正月風景図
(個人蔵)

関連催事について

今回は新型コロナウイルス感染症対策の一環として展覧会の関連講座につきましては、すべて動画配信という形で開催いたします(当館講義室での開催はありません)。詳しくは当館ホームページをご確認ください。講義室での講座を楽しみにしていらっしゃる皆さまには大変申し訳ございませんが、どうかご了承くださいますようお願いいたします。

●新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

企画展

編纂1300年

日本書紀と出雲

◎会期／令和2年10月9日(金)～12月6日(日)

■開館時間／9:00～18:00 (ただし、11月以降は9:00～17:00)

■会期中の休館日／10月20日(火)・11月10日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

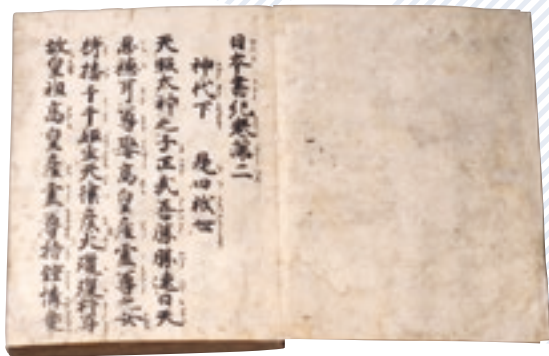
『日本書紀』は、日本最初の正史として養老4年(720)に編纂された歴史書です。令和2年(2020)は、『日本書紀』編纂からちょうど1300年にあたり、古代出雲歴史博物館では、このメモリアルイヤーに企画展「日本書紀と出雲」の開催を予定しています。

『日本書紀』は日本の成り立ちを語る書物であり、数多くの神話や伝承が記されています。そのなかには素戔鳴尊のオロチ退治や大国主神の国譲り、出雲ゆかりの勇士である野見宿禰と当麻蹴速との力競べなど、出雲にまつわる数々の神話・伝承がみえ、古代の日本において「出雲」が特別視されていたことがうかがえます。

また、現代にいたるまで、『日本書紀』にはさまざまな解釈が加えられてきました。それと同時に「出

雲」に対する見方も変化しました。時代ごとの出雲観には、その時々『日本書紀』の再解釈が影響してきたといえます。

本展覧会では、『日本書紀』とそれに見える神話・伝承、さらには解釈のありようを、歴史・美術・民俗などの文化財を通じて紹介します。そのなかで、「出雲」がどのように捉えられてきたかについても再確認できる機会となれば幸いです。



▲【重要文化財】日本書紀（南北朝時代）

(向日神社蔵 写真提供／向日市教育委員会)

『日本書紀』の古写本。全30巻からなる『日本書紀』のうち、国譲り神話などが記されている「巻2・神代下」が京都府向日市にある向日神社に伝わっています。向日神社は幕末の国学者・六人部是香を輩出しています。



▲芳年武者無類 野見宿禰・當麻蹴速（明治時代）（当館蔵）

相撲の源流とされるのが、野見宿禰と當麻蹴速の力競べです。『日本書紀』垂仁7年7月7日条では、野見宿禰は出雲出身の「勇士」とみえます。

●新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

ちょっとだけ

Refresh
OPEN!

リフレッシュした館内をご紹介します!

歴博は約5ヶ月半におよぶ休館を経て、このたびリフレッシュオープンしました。

すでにご来館いただき、新設した展示品などご覧になった皆さまもいらっしゃるのではないのでしょうか。

ここでは、パワーアップした歴博の見どころをご紹介します。



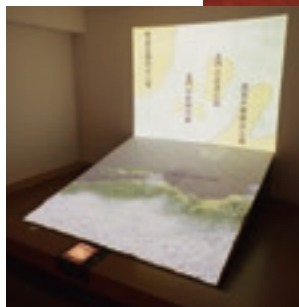
しんのみはしら
心御柱(複製品)

心御柱の実物大の複製品を新たに展示。

出雲大社の壮大さをより実感できるように、実際の柱の位置に合わせて、宇豆柱と並べて設置しています。巨大な柱が2セット並ぶ様子は、非常に迫力があります。

※写真の奥が心御柱(複製品)です。

出雲国風土記の世界



今回のリフレッシュでもっとも変化した展示コーナー。出雲国風土記の復元品による解説や国引き神話のプロジェクトマップで、より深く、よりわかりやすく出雲国風土記を紹介します。



加茂岩倉遺跡銅鐸埋納模型

加茂岩倉遺跡の銅鐸の発掘調査時のデータをもとに、銅鐸が「ひれ」を立てて隙間無く埋納されていた様子を再現した模型です。東京国立博物館で開催された「出雲と大和」展でも展示され、その際も非常に人気のある展示の一つでした。



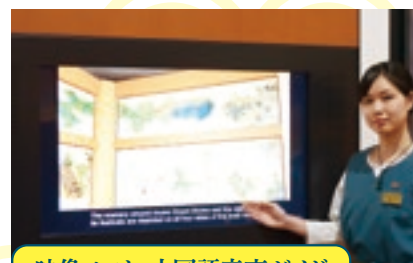
しまねの日本遺産紹介コーナー

皆さん、県内には「日本遺産」がいくつあるかご存じですか? 県内にある日本遺産をまとめてご紹介するコーナーを情報交流室に新設しました。各地の日本遺産を映像や資料で紹介しています。

展示照明のLED化



館内の各展示室や、展示品を入れるケースの中を照らす照明をLED化しました。今までよりも展示品がよりはっきりとご覧いただけるようになりました。



映像ソフト、中国語音声ガイド

展示室内にある映像ソフトに、日本語だけでなく英語や韓国語、中国語の字幕を追加。また無料で貸し出しをしている音声ガイドにも中国語を追加しました。

外国人の方へも、鳥根の魅力をより一層発信できるようになりました。

開催報告

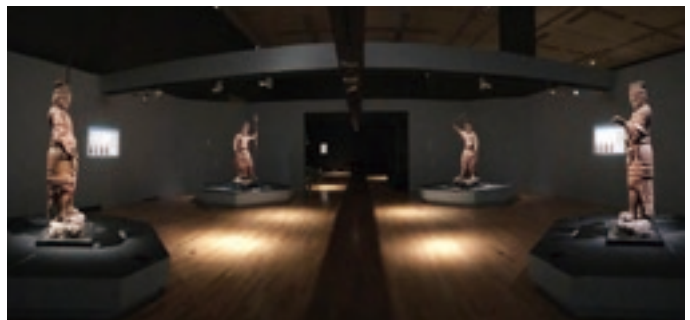
日本書紀成立1300年 特別展 「出雲と大和」



加茂岩倉遺跡銅鐸

令和2年の日本書紀編纂1300年を記念して、東京国立博物館・平成館を会場に特別展「出雲と大和」を実施しました。新型コロナの影響で、残念ながら会期中で閉幕を迎えてしまいましたが、このページをお借りしてご報告いたします。

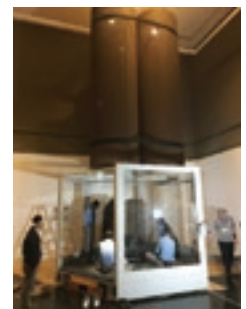
日本書紀に記された国譲り神話を軸に、出雲と大和の名品を一堂に集めた展覧会でした。会期中は、記念講演会・連続講座に加え、石見神楽と雅楽の記念公演も開催されました。さらに、会場となった平成館のラウンジには両県の観光PRブースが設けられ、来館者を現地へ誘いました。当館のアテンダントもそこで当館の再オープンなどをPRしました。展覧会図録は、300ページを超える分厚いものでしたが、13人に1人がお買い求めになるという驚異的な売れ行きを見せました。



萬福寺（大寺薬師）四天王像



出雲大社本殿 1/10模型



心御柱展示作業



ゆるキャラも勢揃い！
多くの方に来場いただきました！

日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」

●会期：令和2年1月15日(水)～2月26日(水)
(当初の予定は3月8日(日)まで)

●主催：東京国立博物館・島根県・奈良県
NHK・NHKプロモーション・読売新聞社

●入館者数：136,054人

◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

今年度開始のテーマ研究

古代隠岐の形成と特質

(研究期間:令和2~令和4年度)

「隠岐の島は海を通じて世界とつながっている」。誇らしく言われた島民の方の言葉を思い出します。島内に持ち込まれた考古遺物からは、海を通じたいろいろな地域と隠岐のつながりが浮かび上がってきます。

隠岐地域は7世紀から8世紀になると、本土とのつながり方が大きく変わり、出雲や畿内との結びつきが急速に強まり、出雲や畿内の土器が流入し始めます。この時期は、日本という国家が形作られる時期でもあり、隠岐国や海部郡^{あまぐん}といった地域区分ができていく時期でもあります。国家形成を推し進めたのは朝鮮半島との緊張関係だともいわれていますが、隠岐国はその最前線となり得る場所でもありました。



隠岐国から都にもたらされた木簡

大きな変革を見せるこの時期の隠岐の研究は、日本という国家の成り立ちの研究にもつながります。飛鳥・奈良の都で見つかった荷札木簡など、豊富な資料を使って多くの情報を引き出したいと考えています。

■主担当者：専門研究員 久保田一郎

島根県古代文化センター刊行物のご案内

古代文化センターでは、島根県内の歴史文化をテーマとした講座やシンポジウムを県内外で開催し、その講演記録集を刊行しています。『島根の古代文化 27』は出雲・石見・隠岐に関連する様々な時代の講座の記録を、『古代出雲ゼミナール VI』は東京で行われたシンポジウムなど、古代出雲に関連する講座の記録を収録しています。

古代出雲歴史博物館の企画展「たたら－鉄の国出雲の実像」の基礎となったテーマ研究「たたら製鉄の成立過程」の調査研究報告書も刊行しました。いずれも、島根県文化財愛護協会にて販売しています(『古代出雲ゼミナール』は一般書店でも販売)。

◎連絡先／島根県文化財愛護協会

TEL0852-22-6612(島根県教育庁文化財課内)



『島根の古代文化 27』

A5版 132頁／販売価格1,000円



『古代出雲ゼミナール VI』

B6版 249頁／販売価格1,100円



『たたら製鉄の成立過程』

A4版 363頁／販売価格2,000円

お家の中でも歴博を楽しめます！

「おうちで れきはく！」はじめました！

新型コロナウイルス感染症の影響により、
全国のミュージアムで家の中にいながら楽しむことができる
サービスの提供が進んでいます。
当館でも「家の中にいても、れきはくを楽しんでほしい！」
そんな想いから島根に伝わる神楽の動画やペーパークラフト工作など、
家にいながらにして島根の歴史や文化にふれて
楽しんでいただくことができる「おうちでれきはく」を
ホームページに掲載しています。
今後、新たな動画や工作を順次掲載していく予定です。
また、島根県古代文化センターからも
島根県の歴史文化や祭礼行事などに関する動画配信や、
クイズに答えて応募するとプレゼントがもらえる
「いにしえからの挑戦状」が始まっています。
おうちで「なぞとふしぎの古代出雲」へレッツゴー♪

おうちでれきはく



「おうちでれきはく」で
島根の歴史や文化を学ぼう！

●【どうしてなぜなぜなのか】（動画の例）

古代出雲歴史博物館がオンラインストアで「おうちで、れきはく」の動画を販売しています。詳しくは、お問い合わせください。

タイトル	価格
どうして、なぜなぜ、おうちで？（出雲の神楽）	1,000円
どうして、なぜなぜ、おうちで？（出雲の神楽）	1,000円
どうして、なぜなぜ、おうちで？（出雲の神楽）	1,000円

●【島根の神楽】（動画の例）

神々の国とも呼ばれる島根では、古くからの伝説によって神楽が守り伝えられています。
島根に大きく分けるると出雲・石見・隠岐の3つの地域があり、その地域ごとに特徴ある神楽が舞われているんです。

1. 出雲の神楽—出雲神楽、松江・出雲神楽
2. 石見の神楽—大分神楽、出雲神楽、それに似ている出雲神楽—出雲神楽の一部
3. 隠岐の神楽—島根神楽、隠岐神楽

タイトル	価格
出雲神楽	1,000円
出雲神楽	1,000円
出雲神楽	1,000円

当館は、
北海道博物館さんがはじめた
「おうちミュージアム」に
参加しています。
ほかのおうちミュージアムにも行ってみよう！



古代文化センターも
おうちでれきはくを応援！



インターネット動画配信サービス
島根県古代文化センター
『自宅で楽しむ 島根の歴史文化』



- 内容
- 第7回古代歴史文化賞受賞作品紹介
 - 島根県古代文化講座
 - 古代出雲文化シンポジウム「出雲と大和」
 - 島根の祭礼行事
 - ほか

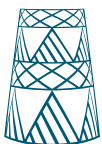


懸賞クイズ
「いにしえからの挑戦状」
公開中！

- クイズについてのお問い合わせ
島根県古代文化センター
TEL0852-22-6727



どこ行く？れきはく！



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] https://www.izm.ed.jp [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)
休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



発行/令和2年6月

